潜在助産婦の活用について

平澤美恵子[1)]　神谷整子[2)]　大沢文子[3)]
朝比奈順子[4)]　多賀佳子[5)]　瀬井房子[6)]

要　約：助産婦のマンパワー確保対策の一貫として、平成6,7年度に厚生省科学研究費を戴き、助産婦教育機関72校の協力のもとに潜在助産婦の実態調査を行った。調査の結果、非就業者が1,635名存在し、その内の546名は3年未満に就業を考えていることが明らかになり、且つ就業希望者は地域保健活動の参加意欲が高いことが判明した。これらの潜在者のパワーを活用することは有効である。しかし、地域保健活動には一定水準のケア能力を必要とするので、「助産婦の産褥訪問」を中心課題にした潜在助産婦の研修会を日本助産婦会の協力のもとに、６月に東京で３日間、９月には滋賀県で２日間開催した。研修内容は、母子保健の動向と行政対策、昨今の妊産婦のニーズや育児の実態、生じている健康問題への対応法などの要旨を基本とした。東京では北海道から九州に至る５６名と、滋賀県では２４名の潜在助産婦が参加した。平均年齢は３０代で研修受講後に市町村保健センターでの健康相談や保健指導、訪問指導などの活動を希望していた。そこで近い将来活動を行う予定の潜在助産婦に対して、東京と滋賀県において訪問指導の具体的な実践指導を計画し、先輩助産婦の同行指導のもとに、１９名の潜在助産婦に訪問の実践指導を行った。

潜在助産婦の訪問指導は、対象のニーズや不安を的確に判断し、自己の妊娠・出産や育児の経験を生かしながら確実な技術を用いた乳房のケアなど、対象に寄り添った支援で対象者からは好評を博し、実践した助産婦も自信を得ることができた。

本年は短期間で研修会の企画・運営をし、受講生に対しての実践指導も東京と滋賀県の２箇所でしか行えなかったが、地域活動を意図している潜在助産婦に実践を伴うこれらの継続教育は、非常に効果的であると評価できた。

見出し語：潜在助産婦の継続教育、助産婦の産褥訪問指導、訪問の実践指導と評価

[1)]日本赤十字看護大学　[2)]出張開業　[3)]訪問指導　[4)]出張開業
[5)]聖母女子短期大学　[6)]ﾍﾞﾋﾞｰﾍﾙｼｰ美蕾

研究目的

3年未満に就業を志している潜在助産婦が、就業の糸口を見いだし、自立して自己の生活圏で地域保健活動（産褥訪問指導）を行う能力を習得できるようにする。

研究方法

1）助産婦が行う産褥訪問指導の目的と教育内容を明確にし研修プログラムを設定する。

2）3年未満に就業を考えている潜在助産婦に産褥訪問指導研修会を企画し、東京と滋賀県で2～3日間の研修を行う。

3）研修会を受けて、近い将来地域保健活動を志している潜在助産婦で東京と滋賀県内の在住者には、産褥母子訪問の実践指導を行う。実践指導は先輩助産婦と同行訪問を行い、その後同じ対象に単独で訪問する。

4）2回の訪問を通して、潜在助産婦と対象者に産褥訪問指導に関するアンケートを行い評価をする。

結　果

1）助産婦が自立して行う産褥訪問の目的は、母子の健康診査を確実に行い健康逸脱の早期発見と、その母子にふさわしいケアや保健指導・健康相談ができることである。さらに地域の保健行政や関連職種と連携を持ちながら、母子の健康維持増進を図ることである。

この目的に向けて潜在助産婦の教育内容には、①新生児学の進歩の知見を加えた新生児の生理、②新生児・乳児期にみられる主な疾病と早期発見、③人間の発達と親子関係、④訪問時の母子の健康診査とケア、⑤月齢別乳児の健康診査のポイント、⑥SIDS・乳幼児虐待（発見と支援のあり方）などの最近の知見、⑦助産婦と保健・医療・福祉の連携、⑧事例を提示してのディスカッション等で構成した。これらの教育内容には多くの具体例を網羅して、状況に応じた判断の視点を討議し、判断能力を高めるとこを意図した。東京と滋賀県で開催したプログラムは表1、表2の通りである。

これらのプログラム内容に対して受講生は、各対象毎の訪問指導の実際に対しては80%以上の者が、人間の発達と親子関係や、SIDS・乳幼児虐待等の最近の知見に対しては60%以上の者が内容の濃い学習になったと評価している。他に助産婦としてのアイディンティティが高められた、実践を伴う講演は具体的で説得力がある、開業助産婦はモデルになる、企画全体が良く興味深く参考になった、などの意見が寄せられた。

2）3年未満に就業を考えている潜在助産婦546名に「産褥訪問指導研修会」の案内を出した。東京では企画から開催までの期間が短かったが、北海道から九州に至る56名が参加した。滋賀県では24名が研修会に参加した。受講生の年齢は30代が最も多く、次いで40代であった。既に業務に携わっている者が10名含まれていたが、今後、地元で母子保健活動を行いたいと希望している者が30名いた。就業年数は5年未満が24名、5～10年未満が17名、10年以上が7名であった。希望する活動内容や活動形態、産褥訪問の料金、業務開始時の困難事項などは、表3の通りである。

活動内容では訪問指導が多いが、活動形態では、市町村保健ｾﾝﾀｰで妊婦健診等の事業に非常勤で働きたいが多く、次いで自宅での電話相談や保健指導である。訪問時に希望する料金は、

3,000円迄が10名、3,000円以上～5,000円が17名、5,000円以上～10,000円11名、15,000円が1名であった。業務開始時の困難事項は、地域で働く具体的方法が分からない、情報が入らない、知識・技術・経験不足からくる不安や自信がないの他に、周辺の助産婦のサポートネットワークや後ろだてがない、育児や家事のサポートがない等が挙げられていた。

研修会に対しては年2回程度の開催で、日程は2～3日間をとの希望が最も多かった。希望テーマは多岐にわたるが、実技を含めた乳房管理の希望者が特に多かった。

3）産褥母子訪問の実践は、研修会終了後東京で11名、滋賀県で8名の潜在者に実践指導を行った。地域で開業し産褥訪問を数多く体験している6名の先輩助産婦がその指導に当たった。訪問の対象者は、先輩助産婦が管轄市区町村から新生児訪問指導を委託された産褥期の母子である。

方法は訪問指導に関するオリエンテーションを全員に行い、1回目の訪問に同行した。同行訪問後に相互評価をし、対象には訪問指導に対してのアンケートを依頼した。2回目は同じ対象者に対して、潜在助産婦が1回目の訪問の評価を兼ねて単独訪問を行った。潜在助産婦の訪問実施後の所感は表4に、訪問を受けた褥婦の所感は、表5に示した。

同行した先輩助産婦から見た潜在助産婦の家庭訪問の評価は、①産褥母子に関する基礎的知識を持ち、対象のニーズや不安を的確に判断できる。②社会性に富み、訪問に対しての「構え」がなく円滑に対象とコミニュケーションがとれる。③育児の体験者であることから、現在の母親の思いに共感できる。④ゆっくり話を傾聴し、普通の育児の大切さを示すことができる。⑤乳房管理などのケア技術を持ち、対象に応じて実践できる、ことなどを挙げていた。

4）訪問指導実施後の評価について

＜潜在助産婦の訪問実施後の評価＞

①訪問を通して育児中の母親・家族の不安が明確になった。具体的には、産褥早期には、乳汁分泌不良などの母乳哺育に関する不安が多く、新生児では、オムツかぶれ、体重が増加しないなどの主訴が多い。1ヶ月近くでは、乳房管理の他、脂漏性湿疹、便秘気味、育児全般に対する不安、上の子供との関係などが挙げられた。

②母親が現在行っている育児に対して、保証する必要性を感じた。

③不安がないと言いながら、話を聞いて相談に載ってくれる身近な窓口（人）を求めている。

④1ヶ月までは母乳栄養が確立せず乳房トラブルが多いので、ケアを行いながら支援することが大切である。

⑤妊娠期からリスクのある母親や、障害者などに対しての木目細やかな訪問が必要である。

以上から、産褥訪問指導は母子の健康診査・保健指導などの判断能力やケアの他に、人間関係の技法が求められるが、これらの業務は地域の中で助産婦としての能力を発揮できる仕事であると感じているようである。

＜訪問を受けた対象者からの評価＞

①施設を退院すると次々に不安が生じてくるが、気軽に些細なことでも相談できる。

②不安解消のみでなく、育児に対して励まされ自信をつけられた。

③自己判断できないことを納得できるように教えられ安心した。また今回の訪問指導で役立った点は、児が順調な発育で安心した、種々の不安が軽減した、母乳管理の仕方を学び母乳栄養に自信がついた、育児法を学び児の異常の早期発見の視点を理解した、などの意見がみられ、母親の持つ個々の不安や問題が改善され、安心感を持ち自信へと結びつけられたようである。

訪問実施後の訪問指導料金に対する意見は、地域差が見られ、東京では5,000円～7,000円が多く、滋賀県では3,000円～4,000円が多かった。対象者からは、有料だと「指導者は仕事だからと思い心が開けない」などの意見もあったが、有料なら安い方が良いが、有料でも訪問指導は必要であるとの意見も見られた。

考　察

平成6･7年度に行った潜在助産婦発掘の調査では1,635名の潜在助産婦が判明し、その平均年齢は37.2歳、平均就業年数は5.3年であった。その内3年未満に就業を考えている潜在助産婦を対象にして行った今回の2地域における産褥訪問の実践指導を、以下の点から考察する。

1）潜在助産婦の訪問指導の適正について

訪問指導に必要とする基本的知識・技術・態度では、研修会の参加時から有職者の研修会以上に意欲的で活発な意見交換を行い、貪欲に最近の知識の吸収を図っていた。

訪問時には助産婦としての就業年数も平均5年程度あるので社会性に富み、自己の育児体験とも重ねて母子の健康診査を行い、母親のニーズを的確に判断しゆとりのある対応が出来ていた。特に1ヶ月以内の母親の心配事である乳房管理や母乳哺育への支援にはケア技術が必要であるが、乳房のケアもその場で行え母親からの信頼を得ていた。母親からは個々の不安や問題が解決・改善され育児への自信や楽しさがわいてきたと評価されている。今回の実践指導は19名と少なかったが、就業を希望している助産婦は、短期間の継続教育により実力が発揮でき、訪問指導者としての適正さが実証できたといえよう。

2）地域保健活動を意図した潜在助産婦の継続教育について

潜在助産婦の能力は継続教育により発揮できることが明らかになったが、継続教育のあり方が課題となる。潜在助産婦は研修会時から意欲的であったが、周囲からの専門的なサポートがないと研修会のみでは足踏みをしてしまうと述べていた。研修会後、地元で訪問の実践指導に参加したことで一層意欲が湧くと共に、産褥母子に支援する必要性を痛感したと述べている。特に今日の育児状況をかいま見て、第1子のみでなく育児不安のある母親全てに訪問対象の範囲を広げること提言していた。従って継続教育は、研修会で知識を習得した後、期間を空けないで先輩助産婦と共に同行訪問を行い、その場その場での対処法や、応用能力を育成していくことが必要である。実践を通してこそ対象の実態が見えて自己の役割やアイディンティティが一層明確化していくことが判明した。

3）潜在助産婦の効果的な活用について

意欲のある潜在助産婦を継続して効果的に活用していくには、以下の改革が求められる。

①活動場所の提供

全国調査でも今回の調査でも、「市町村保健

センターで妊婦健診等の事業に携わりたい」が多く、続いて「家庭訪問や自宅での相談」であった。これらから市町村保健センターなど、行政の中での活動場所の提供が必要である。

②自己の実践に対する評価や、アフターケアを求めていることから、地域の助産婦が支援組織（ｻﾎﾟｰﾄﾈｯﾄﾜｰｸ）を持ち、助産婦同志が相談し支え合うホローアップシステムが必要である。また評価システムの開発も必要であろう。

③地域の行政システムを確実に把握して、社会資源を有効に活用していけるよう、各地域で母子保健関係者を交えた学習会が求められる。

④訪問指導料金の妥当性について

訪問指導料金の希望額には地域差が多少見られたが、希望額は5,000～7,000円が最も多かった。指導時間は最低1時間を要するし、乳房ケアなどを行うと2時間以上になるので、他の在宅訪問ケアなどに比較しても妥当な数字であろう。活用した能力に対する適切な料金の保障は必須といえよう。

⑤地域の教育機関の門戸の開放を

潜在助産婦は、自己学習意欲が高いことから地域の教育機関（大学、研究機関など）が門戸を開放して、教育への市民参加や教材の活用を認めるなどの方略もこれからは要求されよう。

⑥潜在助産婦の70%以上が就業できないでいる理由は育児にあるので、生活圏に時間単位で預けられる保育所や、育児・家事のサポート体制作りの整備が急がれる。

まとめ

再度、就業を目指している潜在助産婦には、短期間の実践を伴う継続教育を行うことによりその能力を有効に活用できる。すなわち潜在助産婦は、意欲的で社会性に富み、かつ自己の育児体験を生かして母子のニーズを把握し、判断能力も高くケア技術を持つことから、地域母子保健活動には適正があると判明した。

これらの潜在助産婦を地域においてマンパワーとして活用するには、身分を保障することと、託児・保育施設の整備の他、地域助産婦や母子保健関係者からの支援体制や定期的な学習会など、継続的な教育支援も必要である。

今後に向けては、地域における訪問指導の援助の質を評価する、評価システムの開発が求められよう。

表1　東京での研修プログラム

	午前		午後	
1日	人間の発達と親子関係		SIDSの最近の知見	
2日	国の母子保健対策	市町村での母子保健対策	乳幼児虐待の諸問題と対策	
3日	新生児・乳幼児訪問の実際	褥婦の訪問指導の実際	褥婦と家族関係支援	ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝとまとめ

表2　滋賀県での研修プログラム

	午前		午後	
1日	産褥訪問を通して感じたこと	訪問指導の実際	ﾏﾀﾆﾃｨｴｸｻｻｲｽﾞ	自由討論
2日	乳児の成長と心と身体	乳房管理 母乳哺育に向けて	産褥期のﾏﾀﾆﾃｨﾌﾞﾙｰｽについて	自由討論

表3　潜在助産婦講習会アンケートまとめ　　N＝53（複数回答）

希望する活動内容		活動形態		訪問指導料		業務開始時の困難	
訪問指導	20	市町村保健ｾﾝﾀｰ	13	～3000円	10	地域で働く具体的方法が不明	19
保健指導	7	自宅	8	3000～5000円	17	情報が入らない	14
電話相談	3	近医	5	5000～10000 円	11	不安・自信なし（知識・技術・経験不足による）	14
開業医勤務	3	就業形態		15000 円	1	周辺助産婦のｻﾎﾟｰﾄﾈｯﾄﾜｰｸ・後ろ盾なし	8
乳房ﾏｯｻｰｼﾞ	2	非常勤	26			育児子育てのサポートなし	6
沐浴指導	2	常勤	3				

講習会についての意見		講習会の今後に向けての意見					
		開催時期・期間		希望するテーマ			
助産婦としてのｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨが高められた	21						
講演内容に具体性あり説得力あり	21	年2回	9	乳房管理	13	助産婦職能について	3
興味深く参考になる	15	年4回	2	思春期	6	最近のトピックス	3
講師の開業助産婦は情熱的魅力的で話上手、モデルとなる	11	年3回	1	最新医学	6	更年期	2
		3日間	13	性教育	4	正常異常の鑑別	2
良い企画である	7	2日間	7	感染症	4	母子保健の現状	1
自然分娩について考えさせられた	4	2～3日間	5	心理学	4	カウンセリング	1

表4　潜在助産婦の産褥訪問実施後の所感

	訪問日	実施したケア	訪問はﾀｲﾑﾘｰだったか	母子訪問指導を行うには助産婦職が最もふさわしいか	必要な行政サービス	希望料金
A	退院 23日目	乳房ﾏｯｻｰｼﾞ 湿疹・肛門のケア	母乳に関し不安あり、今後の方向性見えた	YES/妊娠から一貫した関わりができ、母親が話しやすい	母子健康手帳交付時に指導 妊婦訪問	3000円
B	退院 8日目	乳房管理、育児指導、皮膚の清潔	人工栄養になりつつあったが母乳栄養に理解	YES/助産婦職が専門性を活かせる場所	訪問が1日では少ない 退院後1～2週での訪問	3000円
C	退院 11日目	児の栄養方法、乳房ﾏｯｻｰｼﾞ、搾乳、食事指導	何に対しても不安がある	YES/乳房手当て、産褥の心身の変化、児の扱いすべて助産婦の能力	保健婦は沐浴を実施せず、発育に関するゆとりがない	5000円
D	退院 21日目	乳房管理、授乳方法、育児、着衣	乳緊無く不安であったが、ミルクをまだ補充していない	YES/母乳育児・乳房トラブルに関するケア、児のみではなく母親に関するケアが必要	悩みや不安をもつ事例すべてに訪問指導を行う	1500～ 2000円
E	退院 21日目	十分に訴えを傾聴する	対象がちょうどよかったと	YES/妊娠中から関われる、CSになったが入院中も2回面会	低体重児のみでなく障害者（聴覚・視覚）への訪問も	4000円
F	退院 17日目	体重測定、授乳指導、乳房ﾏｯｻｰｼﾞ、脂漏性湿疹、予防接種、家族計画指導	本人が最も苦しい時期	YES/母乳哺育確立に重要な時期であり、乳房管理は不可欠である	量・質ともに均一なサービスの提供、的確な指導のために指導者の認定	1500円
G	家庭分娩後 1か月	鼻づまり・おむつかぶれの手当て、うつぶせ寝について	1か月健診を前に体重増加や母乳不足の心配をしていた	YES/経産婦なのでその人にふさわしい指導が必要	出産後1か月までは不安が多いので不安者の窓口を設ける	4000円

	訪問日	実施したケア	訪問はﾀｲﾑﾘｰだったか	母子訪問指導を行うには助産婦職が最もふさわしいか	必要な行政サービス	希望料金
H	３か月（里帰り）	乳房ﾏｯｻｰｼﾞ、授乳指導、悪露・月経	４か月健診を前に母親の不安に対応できた	YES/乳房の手当てができる	地域の助産婦の活用	3000円
I	退院35日目	乳房ﾏｯｻｰｼﾞ、湿疹・皮膚のケア	母乳のみでいけるか不安に思っていた時	YES/乳房のケア、新生児の生理を含めた育児指導できる	母乳栄養・育児不安、居住地に不慣れな事例への訪問	7000円以上
J	退院19日目	体重測定、授乳指導、皮膚のケア	母児共に１か月健診前の不安に答えられる	YES/母児ともに観察するためには助産婦の広範な知識必要	初産婦全例への訪問	5000円
K	退院23日目	乳房管理、おむつかぶれ・着衣等育児・生活全般	もう少し早い時期であればおむつかぶれがひどくならなかった	YES/乳房管理ができる、母児とも観察できる	育児に不安を持つ母親への訪問	3000円
L	退院49日目	果汁の与え方、外出の方法	自信につながった	YES/妊娠・分娩期の話を通した産後の指導ができる	もっときめ細かい相談を受けられるようバックアップ	5000円
M		体重測定、前回訪問時指導の確認	誰でも何時でも不安はありどの時点でも有効	YES/乳房のケアが可能、母親の訴えを傾聴できる	行政ｻｰﾋﾞｽは税金がもと、「やってあげる」式はおかしい	5000円
N	退院24日目	乳房ﾏｯｻｰｼﾞ、児の全身チェック	過度な心配なくゆったりした育児につながる	YES/乳房ﾏｯｻｰｼﾞや母児両方の全身チェックが可能	第２・３子への訪問を積極的に（上の子への対応含）	7000円
O	退院63日目	授乳指導、着衣、脂漏性湿疹、眼脂	不安な時期を一人で対応(2M)、もう少し早く	YES/乳房に触れながら適切な指導可能、家族計画指導	１M訪問指導は全例助産婦が行う（適切な指導可能）	7000円
P	退院27日目	乳房の手当て・ﾏｯｻｰｼﾞ、授乳指導	本来なら退院後１～２週までの方がよい	YES/その地域のことを熟知した上での指導可能	２回以上訪問できるように	4000円
Q	退院45日目	乳房ｹｱ、体重測定第１子への対応	母親に笑顔が見られた（第１子に問題あり）	YES/妊娠分娩育児に関して広範な知識あり	新生児訪問は是非継続、楽しい育児へのアプローチ	6000円
R	退院45日目	乳房ケア、ＣＳ後の観察、児の全身観察、育児指導	１M健診と３・４M健診の間で変化多い時期	YES/乳房管理、新生児のケアは助産婦の範疇	現在の訪問指導は、かえって対象に不安を与える指導になっていないか	5000円
S	退院19日目	授乳指導、児の寝かせ方、果汁の与え方、入浴・外気浴、第１子への対応、臍について	体重増加に問題あり、よいタイミング	YES/入院中の母体の状態が把握できて指導ができる	第２子への訪問、育児書と実際の育児とのギャップを感じている人への訪問	3000円

表5　産褥訪問を受けた対象者の所感

	経産回数 年齢	訪問時の母親の不安	退院後の相談者 解決したか	訪問指導で役立った点	母子訪問制度の必要性	訪問希望職種	有料での訪問希望
A	２Ｐ 30歳代前半	２児とも混合栄養 母乳分泌不良、湿疹 肛門ただれ	近所の小児科医	育児への自信、母乳栄養への自信、来てもらってよかった	YES/病院では聞けない事を個別に聞ける	ＨＣ保健婦 ＨＣ委託助産婦	NO
B	０Ｐ 20歳代前半	母乳分泌不良、排気しない、便秘(1日)	夫 解決	順調な発育安心、母乳栄養の自信、母乳管理法	YES/いろいろ相談できる	出産施設助産婦	YES/安い方がよい
C	０Ｐ 20歳代後半	乳房の手当て、哺乳量、体重増加	乳房マッサージに通う 継続中	不安軽減、母乳栄養の自信、母乳管理法、病院指導との食い違いに不安	YES/不安や疑問は次々とあり、その解決に役立つ	ＨＣ委託助産婦（MWは分娩に関わり安心、病院MWは片寄りあり）	YES/ 2000～ 3000円
D	２Ｐ 25歳	乳緊なく母乳不足？ 授乳間隔が空かない 上の子の育児不安	特になし	順調な発育安心、母乳栄養の自信、母乳管理法	YES/退院後に不安生じる。病院より気軽に聞ける	助産婦や児の専門家なら誰でも	NO 有料なら病院
E	０Ｐ 20歳代前半	精神的緊張強い（児をとられてしまう） 嫁姑間の相互の緊張（夫婦聴力障害者）	実母・夫 １週間程かかり解決	順調な発育安心、不安軽減、育児方法、母乳管理法、産後生活	YES/不安や心配の解決だけでなく育児に対する励まし、自信がつく	妊娠中知り合った人	NO／有料だと仕事になり心開けない
F	２Ｐ 30歳代	育児全般不安、泣いてばかりで手が離せない	特になし	順調な発育安心、不安軽減、母乳栄養の自信、児の異常の発見	YES/児の発育がわかる不安な事が聞ける	ＨＣ保健婦	YES/ 1000円以内
G	１Ｐ 20歳代後半	鼻づまり、体重増加 おむつかぶれ	その都度助産婦に相談、解決 （家庭分娩事例）	順調な発育安心、不安軽減、育児方法、母乳管理法、児の異常の発見、母乳栄養の自信	YES/自己判断できないことをしっかり教えてもらえ、安心する	出産施設助産婦（家庭分娩事例）	YES/
H	０Ｐ 26歳	悪露が継続、母乳回数が少ない	実母 未解決	順調な発育安心、不安軽減、母乳栄養の自信、母乳管理法	YES/今回の育児の励みになった	ＨＣ委託助産婦	NO
I	０Ｐ 30歳代前半	母乳不足、ミルク補充、児の湿疹	医師（湿疹） 解決	順調な発育安心、不安軽減、育児方法、母乳管理法	YES/訪問してもらうだけで不安な育児に少しでも自信が持てる	ＨＣ保健婦	YES/ 2000円＋交通費
J	０Ｐ 30歳代前半	母乳分泌量、哺乳後の嘔気、お尻のただれ	友人や母親 結局保健婦に相談し解決	不安軽減	YES/育児書ではわからない、実際に自分の子供を見てもらって意見が聞ける	ＨＣ保健婦 ＨＣ委託助産婦	N.A.

	経産回数 年齢	訪問時の母親の不安	退院後の相談者 解決したか	訪問指導で役立った点	母子訪問制度の必要性	訪問希望職種	有料での訪問希望
K	0P 30歳代前半	乳緊、おむつかぶれ衣類の調節、添い寝の是非、小児科医院の選択、外出方法	病院に電話 解決	順調な発育安心、不安軽減、母乳管理法	YES/退院後不安や心配事があってもすぐ開けるところがない。1か月頃不安がたまる	HC委託助産婦 助産婦の方が適切なアドバイス可能	YES/ 2000円
L	0P 30歳代前半	母乳哺育の継続、育児全般	産院看護婦・友人・母親、解決	順調な発育安心、母乳栄養の自信、育児への自信	YES/母乳のことなどを相談し自信がついた	HC保健婦 HC委託助産婦	N.A.
M	0P 20歳代後半	特になし	N.A.	順調な発育安心、母乳管理法	YES/1M健診までに専門家に児の発育を診て貰えると安心	N.A.	NO 現状維持
N	1P 30歳代前半	便秘、目の焦点が合わない、舌を出す	産院、訪問助産婦、　解決	不安軽減、児の異常の発見、母乳栄養の自信、母乳管理法、乳房マッサージの結果乳房の痛み軽減	YES/産後1・2か月は外出できず、同月齢の他の児を見ないので我が子の発育状況が不安	HC委託助産婦 出産施設助産婦	YES/ 5000円
O	0P 20歳代後半	授乳方法、着衣、脂漏性湿疹、眼脂	出産病院 解決	順調な発育安心、不安軽減、育児方法、家族計画	YES/実際に児を見て話せる、助産婦から児と話せることを習えた	相談できるなら誰でも	500 ～ 1000円
P	0P 30歳代前半	乳頭痛	保健婦 かなり解決	母乳栄養の自信、母乳管理法	YES/不安やわからないことが解決する。2回目以降も訪問可能に	HC委託助産婦 HC保健婦 出産施設助産婦	YES/ 3000円
Q	1P 20歳代後半	体重増加、第1子の発育状況・言動・行動	病院（乳房マッサージ） 解決	順調な発育安心、母乳栄養の自信	YES/動きがとれない時なので話を聞いてもらえるだけで気が紛れる	助産婦であれば誰でも	YES/ 2000円
R	0P 30歳代前半	児が泣くこと、粘液便	特になし 初めはどうしたらいいかわからず泣いていた	順調な発育安心、不安軽減、母乳栄養の自信	YES/いろいろな意味で心から話せるので安心する	HC委託助産婦	NO
S	1P 30歳代前半	夜間授乳の間隔、いつも同じ方向に顔を向ける、出べそ	特になし 未解決（現在も継続）	順調な発育安心、育児方法	YES/様々な不安があるのでベテランの人に相談にのってもらえると安心する	HC委託助産婦 出産施設助産婦 HC保健婦	YES/ 2000円

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要　約:助産婦のマンパワー確保対策の一貫として、平成6,7年度に厚生省科学研究費を戴き、助産婦教育機関72校の協力のもとに潜在助産婦の実態調査を行った。調査の結果、非就業者が1,635名存在し、その内の546名は3年未満に就業を考えていることが明らかになり、且つ就業希望者は地域保健活動の参加意欲か高いことか判明した。これらの潜在者のパワーを活用することは有効である。しかし、地域保健活動には一定水準のケア能力を必要とするので、「助産婦の産褥訪問」を中心課題にした潜在助産婦の研修会を日本助産婦会の協力のもとに、6月に東京で3日間、 9月には滋賀県で2日間開催した。研修内容は、母子保健の動向と行政対策、昨今の妊産婦のニーズや育児の実態、生じている健康問題への対応法などの要旨を基本とした。東京では北海道から九州に至る 56 名と、滋賀県では24名の潜在助産婦が参加した。平均年齢は30代で研修受講後に市町村保健センターでの健康相談や保健指導、訪問指導などの活動を希望していた。そこで近い将来活動を行う予定の潜在助産婦に対して、東京と滋賀県において訪問指導の具体的な実践指導を計画し、先輩助産婦の同行指導のもとに、19名の潜在助産婦に訪問の実践指導を行った。

潜在助産婦の訪問指導は、対象のニーズや不安を的確に判断し、自己の妊娠・出産や育児の経験を生かしながら確実な技術を用いた乳房のケアなど、対象に寄り添った支援で対象者からは好評を博し、実践した助産婦も自信を得ることができた。

本年は短期間で研修会の企画・運営をし、受講生に対しての実践指導も東京と滋賀県の2 箇所でしか行えなかったが、地域活動を意図している潜在助産婦に実践を伴うこれらの継続教育は、非常に効果的であると評価できた。